

# 安平町被災資料支援報告

日時：平成30年9月15日（土）9：30～15：30

派遣者：舟山直治（北海道博物館）、尾曲香織（北海道博物館）、荒川忠宏（勇武津資料館）、児玉正敏（様似町教育委員会）、高橋美鈴（様似町教育委員会）計5名

安平町対応者：瀧井真司課長補佐

## 1. 施設概要

### （1）早来郷土資料館

農機具を主に展示しており、その他、考古資料、生活用品、汽車関係資料などを展示している。農機具類は施設の壁面に沿って配置されている展示用の壁に貼り付け及び平置きで陳列されている。考古資料、生活用品などはケース内に陳列されている。

住所 安平町早来大町156-1

### （2）追分郷土資料館

歴史・産業コーナーと生活・趣味コーナーの二つの展示室があり、町の歴史や農業、土木関係資料の展示や、かつての暮らしを再現した展示がある。施設の壁面には木製の棚が設置されており、資料が平置き、あるいは衣類はハンガーで吊すなどして陳列されている。小型の資料は、ガラスケース内に展示されている。

住所 安平町追分中央1

### （3）鉄道記念館

蒸気機関車『D51 320』のほか、SLの部品や、駅・機関区・保線区の旗や制服、当時の写真などが展示されている。館外にはSL『D51 241号機』の動輪や正面の扉が展示されている。

住所 安平町追分白樺2丁目14

## 2. 被災状況概要

早来郷土資料館及び追分郷土資料館、鉄道記念館（追分）の被災状況を確認。早来郷土資料館では、館内及び隣接する倉庫内部を確認。資料は散乱しており、資料の破損も確認できた（別表参照）。また、施設の被害も見受けられ、展示室内では資料を展示している壁にズレ、天井照明の一部が外れる、縦型ケースのガラスが破損などの被害が確認された。また、隣接する倉庫では柱1本の損傷が確認され、早急の対処が求められる。追分郷土資料館、鉄道記念館の被害は早来に比べると少なく、資料のズレや展示ケース1点の破損が確認され、当日のうちに可能な限り現状復帰を行った。

追分郷土資料館では、今回の地震の影響による破損資料は1点（火消し壺）確認された

### 3. 支援内容

本支援を1次支援とし、2次支援に進めるよう被災状況の確認・資料の整理を目的として実施した。各資料の被災状況は以下の通りである。

民具資料の支援に際して、資料清掃用のキムタオル1箱のほか、仮梱包用に、段シート1巻、エアクッション1巻、薄葉紙1包、プラスチック製汎用コンテナ（内寸38×60×14.5cm）24個を用意し、早来と追分で使用した。

安平町早来郷土資料館

<民具資料>

展示場入口左にある開拓小屋のジオラマ展示では、石油ランプが落下して破損。ジオラマ自体が倒れる可能性があることから、ジオラマ内の生活用具を休憩室に移動。破損した石油ランプは、まとめて仮梱包した後に移動。

展示場内の壁面3方には、展示用壁面と展示台が設置され、農具、衣食住、趣味・娯楽、商業、酒造り関係資料などが展示されている。地震により、唐箕など大型農具のほか、不安定な資料が倒れていた。壁面と台上にあった小型資料はコンテナに収納後、中型資料は単体のままで収蔵庫2へ移動。行火、レコード、食器など破損した資料は、仮梱包した後に移動。農具やミシンなどの大型資料は、中央の機織り機の周辺にまとめる。展示用壁面と展示台をあけた後、長辺の中央で破断していた展示用壁面を仮補修した。

展示場中央のガラス面のある展示ケースの内、センターケース4つに展示されていた賞状、雑誌、本などは、コンテナに入れて休憩室へ移動。入口右の展示ケースの資料は、銃刀を除いてコンテナに入れて休憩室へ移動。

展示ケースは総て施錠した。

資料保管庫の大型民具資料は、一端外へ搬出して、建物の被害を確認した後、床や棚などに再配架した。行火、蒸しかまどなど破損した資料は、まとめて仮梱包してから棚に収めた。

<考古資料>

考古資料は、大町2遺跡出土資料（（公財）北海道埋蔵文化財センターが平成16、17年度に調査を実施）、遠浅1遺跡出土資料（発掘主体者不明。実測図コピーの貼り付けあり）、その他出土遺跡不明出土品が展示されていた。本支援では、資料を確認し破損しているものとしていないものに仕分け、下記のとおり整理を行った。

#### ○壊れていない資料

壊れていない資料は緩衝材で梱包、箱に収納し収蔵庫①に移動させた（大町2遺跡はセンター返却ダンボール記載番号どおりに収納、遠浅1遺跡は遺跡名が貼られていた空ダンボールにナンバー不順で収納）。その他、出土地不明資料はチャック付き袋に入れてコンテナにまとめて、展示室に保管している。また、郷土館台帳ナンバーと資料が泣き別れになっていて台帳の照会が必要なものが2、30点確認された。これらもまとめてコンテナに収納し、展示室に保管している。

展示されている鉄製の鉾1点に破損はないが温湿度変化による劣化が想定されることから、シリカゲルを敷き詰めたダンボールに収納し、展示室に保管している。

#### ○壊れている資料

壊れていて接合が必要な資料は18点確認された。これらは、台帳記録後に緩衝材で梱包後コンテナに収納し、展示室に保管している。また、一部資料は、更なる破損を防ぐためにセメダインCを用いて接合を行った。

追分郷土資料館では展示資料である郵便ポストが倒れたために入口扉のガラスが破損、また展示用のガラスケース1台が倒れて破損したことを確認した。ボランティアの手を借り、可能な限り現状復帰を行ったほか、余震により転倒や落下の恐れがある資料は棚から下ろすなどの対策を講じた。資料を展示用の棚の上段が斜めになっており、そこに重量のあるものが展示されている例が多く、資料を固定する方法を検討する必要がある。また、収蔵資料が一覧になっているが、写真や収蔵番号がないなどの理由から当日は実物と照合できなかった資料が多数あった。一覧表以外の台帳の有無を確認し、照らし合わせ、今後の資料活用のための作業を行う必要がある。

鉄道記念館内の資料は破損がないことを確認した。館外に展示されていたSLやそれに関連すると見られる資料は、別の場所にて展示する工事の最中であり、既に移動したものもあった。一方その場に残されており、移動が予想された資料については町職員を通じ、廃棄予定であることを確認した。

二次支援では、これらの再接合と泣き別れ資料の照らし合わせを行う必要がある。

また、館内収蔵庫①には北海道埋蔵文化財センターから返却された資料が収められている。これらの資料も散乱した状態だったことからボランティアがコンテナに再収納してくれていたが、コンテナの外書と違うところに戻されているので確認、整理が必要。

※ センターが発掘した資料は、資料台帳・収納台帳があるのでそれらで確認が可能。

#### 4. 今後の流れ

① 9月中旬に展示壁、配線系統などの点検・修理（安平町対応）

② 10月から2次支援を実施（道博協対応）

- ・ 2次支援可能な学芸員の調整
- ・ 台帳と照らし合わせ・被害状況記録
- ・ 接合復元（考古資料）

③再展示（道博協を中心として学芸員対応）

- ・ 安平町職員とともに資料の再展示（ディスプレイのアドバイス）

※ 追分側は被害が少ないため、早来側の修復作業を第一目的とし、追分側は町で対応してもらうか早来同様アドバイスをしながら一緒に展示するかは要検討

#### 5. その他

- ・ 展示に必要な物品消耗品は安平町で対応可能とのこと
- ・ 被災状況記録写真を道博協・博物館連絡協議会・学芸職員部会などで供覧することは安平町承諾済み

#### 参考写真

